

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に「地域と交流を持ちながら・・・」と事業所独自の理念を作り上げ町内の夏祭りや文化祭、運動会、もちつきなどの参加により地域の交流を大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	談話室、各ユニットの入口、各カウンターに理念を掲示し週1回の朝礼時と全体会議で復唱し、理念を共有し理念の実現に心がけている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	契約説明の際に理念の説明を行い、病院と合同の季刊誌で、理念や方針について案内している。家族会や、地域の方も参加される夏祭りの際に、理念を交えて挨拶している。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	苑外散歩の際に声をかけてもらったり、ホームの畑で収穫した野菜をおすそわけしたり、近所からも竹の子など季節の野菜を頂いたりと交流に努めている。歩いていける近所の店や、床屋など利用している。	○	近所の散歩の機会を多く持って、ADLの低下を防ぎながら、近所の人達と顔なじみになり、日常的なつきあいが出来るように努めていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の夏祭りや文化祭、もちつき、運動会などの行事に利用者と参加し、高校生や専門学生、幼稚園児など、ボランティアに来てもらったりしています。	○	今後は自治会や老人会に加入して小学校などとも交流を持ち、地元の活動や交流をより積極的に取り組んで行きたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	昨年12月からでは、5回地域の研修に参加。それぞれ全体会議で報告会を実施し事業所独自の勉強会を10回実施しています。昨年度より市内のグループホーム事業同士で集まり事業所の成果や困っている事などの情報交換を行っている。	○	学生の職場体験の受け入れや介護相談の窓口で近所の方々に気軽に相談にきてもらうように努めて行きたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	指摘された点を全体会議で報告し話し合い改善実施に努め、運営推進会議や家族会でも報告、話し合いをして、改善計画シートを活用している。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス内容の報告の他、テーマを決めて話しをし、市職員や地域の方の意見、提案をして頂き、議事録に残してその後スタッフで話し合い改善、実行しサービスの向上に努めている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年9月19日、本年9月26日市内後グループホーム事業所が集まって意見交換会を実施。	○	今後も交流できる場を増やし、連携しサービスの向上に努めていきたい。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居時に制度についての情報提供を行い、スタッフは7月28日全体会議で勉強会を実施。研修会があれば参加するようにしている。	○	次回の家族会の時に成年後見制度と地域権利擁護事業についての勉強会を実施する予定。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	2月28日全体会議で勉強会を実施し、研修会があれば参加するようにしている。又、日常でも事業所内で言葉使いや声かけの仕方などで気がついた時など全体会議やユニット会議で話し合い、注意を払い防止に努めている。又、2ヶ月に1度虐待シートを用いてチェックを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の各項目に対して説明し、説明後も家に帰られたら、もう1度書類に目を通してもらい、わからない事があつたらいつでも聞いて下さいと伝え、理解、納得を得られるように努めている。又契約解除に当たっては入院中の場合は家族、医師と共に話しあっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市より介護相談員の訪問を受け、意見、苦情を出しやすいうちを努めている。運営推進会議のメンバーとして利用者に参加してもらい、意見や要望を聞いている。意見や苦情の出た場合は全体会議で話し合い速やかに対応し運営推進会議や家族会で経過や結果の報告をしている。月に1回入居者全員参加で懇談会を行い意見を聞いている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、写真付きのスマイル便りを送付し、その中で暮らしぶり、受診状況など伝えています。又面会時に利用者の生活状況や健康状態の説明を行っている。急な心身の状態変化のあった場合は随時、報告しています。預かり金は金銭出納帳をコピーし、領収書と一緒に家族に渡し確認印をもらっている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を設け、意見の収集に努め、玄関先にも意見箱を設置している。苦情や意見があった時は、速やかに対応し全体会議でカンファレンスし、改善の経過や結果を、家族会や運営推進会議で報告しています。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の定時の全体会議と各ユニット会議の他、必要時全体会議を随時行って、行事、業務、環境整備、サービス内容、システムの変更、運営も含め利用者の受け入れやスタッフの対応などあらゆる面でスタッフ間で話し合い反映させている。又、年2回自己評価してもらい意見を記入してもらっている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	早出、日勤、遅出、夜勤によって利用者主体に人員配置をおこなっている。8人常勤で確保しており、食事作りのみのパートの方もお願いしている。A・Bユニットスタッフが勤務調整を行い協力体制を整えている。職員が変わる際は1～2ヶ月をとりスムーズに移行できるようにしている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前、転属などで家族からもスタッフの顔が覚えられない。と言う意見があった事より認知症の入居者に対しては良くない事を上層部に伝え、理解を得て、異動は最小限にしてもらっている。行事をA,B合同で行い、全てのスタッフが入居者全員となじみの関係となれるよう努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は性別、年齢に関係なく雇用しており、病院退職後の方も採用し、差別なく安心して働ける環境を目指している。職員の持つ特技や個性が生かせるよう役割を持ってもらい、各自、主導権をもってもらっている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	地域の人権教育の研修に参加し、全体会議において伝達、学習している。又人権に関するビデオ鑑賞をスタッフで行った。11月22日に人権啓発研修に参加予定している。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パート、正職者に限らず研修や勉強会の知らせが来たら掲示版に掲示し、参加を促し、参加後は報告書の提出と共に全体会議にて報告会を実施。研修費用も各自年に1万円支給される。育成については年2回自己評価をしてもらい経験に応じて資格をとっていけるよう働きかけている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度より、市が仲介となって同業者のネットワークを作りあげ、意見交換などおこないサービスの向上に向け勉強会などの活動をする予定にしている。	○	本年は9月26日に開催したが年1回の割合なので密に開催し連携をとっていきたい。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室でくつろげるよう、テレビや飲食できる備品や流し台、コンロも設置している。その他、テラスを利用し休憩したり病院主催の親睦会が定期的で開催されたり、旅行積み立てをし病院と合同で年1回旅行に行くようにしストレス解消に努めている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回行う自己評価による研修参加や資格取得の努力状況などの成果を、給与に反映されるなどしている。年2回の健康診断の実施。毎月の検便検査。産休、育児休暇など労働条件の向上に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	病院に入院されている場合、ホールや病室にて面接を行い、顔を覚えてもらう事より始め、できるだけ話し、本人の気持ちを聞きだせるようにしている。家族や病院からの情報も参考に本人のニーズの把握に努める。病院に行った時は立ち寄り、挨拶をし、話をするようにしている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前の数回の面会により、話をしていく中で、何に1番困っているか、何を望んでいるのか、不安に思っているのか、聞き出すようにし、ソーシャルワーカーを通して家族の意向など情報を得ている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞き、相談に来られた時に十分な時間を設け、本人と家族のニーズが違っている場合は家族に本人のニーズを伝え、理解を求め協力を得るようにしている。又、対応困難な場合は利用者のレベルにあった生活の場の説明や、病院のケアマネージャーやソーシャルワーカーの協力を得て、他の機関の紹介をしている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者家族へ事前にご本人に見学して頂くようお願いしている。入院される場合は病室へおじゃましてなじみの関係を作り、ご本人が納得してから利用してもらうようにしている。	○	緊急に入居されるケースもあり、1, 2度の面会のみ時の時もあるため、待機中などは機会あれば随時面会しておくようにしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作り、洗濯たたみ、雑巾がけなどそれぞれで発揮してもらい、裁縫など特技などで共に作業を行い、昔ながらの方法を覚えてもらったり、団子作りやお菓子作りなど上手く出来るコツを教えていただいたり感心する場面が多い。感謝の言葉を多くするようにしている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望のある入居者に対しては電話をかける事や面会にきてもらう事など理解を得て、面会によくきていただいている。身内ばかりでなく他の利用者の家族とも談話していただいたり夏祭りやクリスマス会、誕生日会などにも来ていただいている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	多くの家族が、よく面会に来られ家族との外出、外泊などされ、誕生日会やイベントの際は連絡し参加を促し疎遠になっている場合などは電話連絡して来てもらうようにしています。入居費は振り込みでなく持ってきてもらうようにしています。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前入居されていた方の家族が、馴染みの入居者に会いに来られたり、苑内のイベントに参加して頂いたり、近所の商店やスーパーに買い物に行ったり以前の施設の友人が面会に来られたりしている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	攻撃的で他入居者に対して暴言を吐いたり、ジーンと見られたりする入居者に対して、テーブル席を変えたり、新聞を勧めたり体操、レクリエーションを一緒にしたり、スタッフが間に入り、コミュニケーションをとったりしている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	以前入居されていた方のご家族が、なじみの入居者に会いに来られたりイベントに参加してもらったりしている。長期入院により退去された方は、再度入居の申し込みされる方がほとんどで、移動された後も、病院のソーシャルワーカーと連絡をとり合い顔を出し様子をみている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1回は懇談会を開き、要望、困っている事などを聞き、ケアプラン作成に生かしている。構音障害や自己表現が困難な利用者の場合、行動観察を行い、アセスメントを行っている。1場面の前後の行動をカンファレンスで話し、個人の背景を把握しニーズに添えるよう努めている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接にて本人、家族、施設、病院からもできるだけ情報を得ている。入居後も、昔話を聞いたりし、又家族の協力も得てフェンスシートにまとめ、スタッフ全員で情報を共有できるようにしている。面会に来られた家族とも更に話し信頼関係を築けるよう努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各勤務帯において、わかりやすいよう排泄チェック表、水分摂取量の記入。毎日の介護記録に食事量、内服、点眼、バイタル入浴を記入。経過も各自間帯において記入し大事な事柄に申し送り欄がある。生活日誌においても1日の流れを記入し1ヶ月の状態がすぐわかるよう検温表として全記録を記入している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の朝のミーティングで気づきを話し、必用であれば医師・看護師・家族に相談し、介護計画に反映している。1ヶ月に1回はケアカンファレンスをし、その人、その時期にあった計画を作成して行くようにしている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日のミーティングの中で利用者の状態について話しており、困難な問題が生じたりしたら、よりよい方法をスタッフ間で話し合い、其の事を元にして介護計画の見直しを行っている。1ヶ月に1度はケアカンファレンスを行っており必要時には計画期間内でもプラン変更している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝、出勤時に利用者個人把握のため、目を通して把握できるようにしている。休みが続いたスタッフの場合でも各自1週間ずつ綴じている記録によりわかりやすくしている。個人記録で理解し計画に沿って記録し状態変化の発見が出来る。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関と連携をとり、歯科往診を行っている。母体が病院のため、病院スタッフが付き添いその他の病院の受診時の付き添いは交通費1回100円のみ頂いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署とは非難訓練を通して協力を頂いている。公民館の文化祭の参加や、夏祭、家族とも交流していただいている。区長さんも時々来所され入居者さんとなじみの関係になっている。また地域の運動会の参加や幼稚園との交流で入居者さんの活性化にも生かされている。派出所の警官に会議に参加してもらったりした。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて、歯科往診をしてもらっている。訪問理容や地域のケア相談事業所と情報交換している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在まで該当者はいないが、事業所のみでは困難な状態になった場合など、グループホーム意見交換会や市の地域包括支援センターに相談し連携をとりながら支援をしていく。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者が母体の病院にかかっているが、歯科、眼科などかかりつけ医のある方は継続している。受診はスタッフが付き添い受診時の報告は随時行っている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師への相談がスムーズであり、必要時は受診し話を聞いてもらったり、指導や内服変更をしてもらっている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、入居者の健康管理を行っている。夜間や休日は電話連絡や施設の近所に在住の為、必用時には来てもらっている。また母体の看護師に連絡して助言をもらったりしている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際は家族と共に医師から診断結果や治療計画を聞いている。入院中は担当看護師やソーシャルワーカーと連絡をとり、退院の調整や、今後の対応を話し合っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、重度化した場合、終末期の指針を説明し、同意を得ている。その時々の本人、家族の意向を確認しながら対応方針の共有を図っていく。急変時の対応なども、スタッフ間で共有し介護にあたっていく。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	予測される事柄、ホームの機能状態や他の入居者への影響なども踏まえ、訪問看護導入などホームで出来る事、出来ない事を把握し、スタッフと家族が協力し日々検討していくようにする。	○	今後の変化に備えてグループホームの意見交換会などでターミナルを経験した所より情報を得て検討や準備を行いたい。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用されていたサービス機関や家族から、本人の状況、習慣、好みなど情報をもらい、本人、家族の希望を聞き、今までの生活が継続できるよう支援していく。ホームから移られる時は、これまでのケアのノウハウなど情報を提供している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については、入居時に守秘義務について重要事項説明書に明記しスタッフ全員周知徹底している。カンファレンスでも誇りや尊厳など、呼び方、話し方、接し方などについて話している。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	体操やレクリエーションの参加は本人の意思を尊重。食事や料理法、行きたい所など希望を伺っている。入浴も本人の意思を大切に、いつでも入れるようにしている。1行動を元にして、ニーズ、精神状態について話し意向を把握するようにしている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	新聞、野球を観られる方と歌を聴かれる方など時間をずらしたり、楽しみを持って過ごしてもらっている。状態、ニーズにより、食事時間をずらしたり、入浴は日勤帯でいつでも入れるようにしている。夜は希望時間までホールで過ごして頂いている。	○	ゆっくりマンツーマンに会話をしたり、楽しみ作りを増やしていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ネックレスや指輪をされていたり、外出やイベント時は、身だしなみに化粧のアドバイスを行っている。希望により、美容室より訪問でカット、パーマをしたり、行き付けの床屋に行かされている方もある。定期的にスタッフにより希望者にヘアカラーもしている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作りをしたり、ホーム内で採れた作物を料理に取り入れたりし、一緒にテーブルで同じものを食べて笑いのある食事をしている。配膳や下膳、テーブル拭きなどその人にあった望むことをして頂いている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	以前はいらしたが、現在はタバコ、お酒を希望されていないため提供していない。家族が持参されたお菓子は事故防止のため預かって、少しずつ提供している。おやつは希望を聞き人気のあるぜんざいなど手作りで提供するようにしている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	行動観察や記録により誘導したり手を挙げてサインされたり、耳元で聞いて誘導している。安易にオムツにしないため、カンファレンスを行い、出来る限りトイレへ誘導するようにしている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は日勤帯で毎日、いつでも入れるようにしている。目が届くように1人ずつ入ってもらっている。拒否のある場合は無理じいせず、タイミングを見計らい自然に入れるように時間をずらしたり、スタッフで連携をとっている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間帯であまり良眠できていない場合や体調不良の場合は居室へ誘導し、静養して頂いている。個別記録により、睡眠パターンを把握するように努め、場合により家族、医師と相談し、薬剤で調節を図ることもある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの特技、趣味嗜好により、料理、裁縫、音楽・映画鑑賞、園芸、ドライブなど状況に応じて提供し、楽しんで頂いている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お賽銭や、買い物ではお金を渡し、本人に払ってもらう場面作りをしている。	○	買い物など、金銭を取り扱う場面をもっと多くして行きたい。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がいい日は、車椅子でもなるべく散歩をするようにしている。イベント行事で地域の文化センターへ出かけたり、本人の希望があれば、随時対応し、車椅子持参してドライブしたりしている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と墓参りや、外食、祭りなどにでかけられている。希望があればスタッフ付き添いで行ける所は随時対応し、季節ごとの桜やコスモスや足湯などに出かけている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの電話希望の際、取次ぎを行っている。居室で使用できるようコードレス電話も用意している。以前は手紙のやり取りの支援も行っていたが現在は希望者なく、行っていない。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族だけでなく全ての訪問者に対し、気軽にきて頂けるよう、面会時はゆっくり過ごされるように居室へ誘導し、お茶、お菓子を準備するよう配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止法の勉強会において拘束についても指導し、拘束をしないための支援に取り組んでおり実例はゼロです。転倒の恐れのある方にはセンサーマットにより予防している。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守り担当者を決め、自由を奪わないようにしている。玄関にセンサーマットを活用しているが、ドアは鍵をかけず、開放している。利用者が外へ出ようとされる時は見守りつきあっている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	1名以上のスタッフがホール、キッチンに居て利用者の行動把握に努めている。業務分担で見守り担当者が責任を持って行っているが席を外す際など声かけし注意をはらっている。夜間の行動に危険のある方はセンサーマットにて対応している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な薬品等は利用者の目につかない鍵のかかる場所に保管している。収集癖のある利用者については入浴時などで部屋のチェックをしている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや転倒の報告を活用し、申し送り時や全体会議でカンファレンスし事故の再発防止に努めている。又、定期的に火災訓練を実施している。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルがあり事故発生時に方法の共有をし定期的に勉強会をしている。消防職員からの救急救命方法などの指導も定期的に行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼、夜設定にて非難訓練を消防署の協力のもとでおこなっている。消火器、火災報知器の点検も定期的に行っている。非常用食品や備品を用意し、毎夜勤時、安全確認にて5項目の点検をおこなっている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態変化があった場合など随時家族に報告し、起こり得るリスクも一緒に、ありのまま家族へ伝え、家族の意志を確認しながら取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル測定、食事摂取量、排泄回数、水分摂取量などチェックを行い、変化については看護師が報告を受け、異常時はすみやかに受診している。変換事項は記録の申し送り欄に記入したり、申し送りノートに記入したりして情報の共有に努めている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに各自の薬剤情報をファイルし変更のあった場合はマーキングしてわかりやすくしている。又大切な薬は赤マジックでチェックしわかりやすくしている。薬剤管理箱を準備している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	おやつは乳製品を多く出すようにし、献立も根菜類を多く使用するようになっている。水分チェックと排泄チェックを行い、各人の排泄状況の把握と夜間の水分補給に留意している。散歩や体操を日課としている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは個人の状態に合わせ、声かけだけだったり、付き添いだったり仕上げのみ介助だったり、義歯の洗浄は毎日行っている。歯科往診も定期的に来ていただき年1回検診も行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、各人の摂取量を記録し、毎月体重測定している。水分摂取量も食事、おやつ、その他提供時、記録し摂取量の少ない方には、好物の飲み物を提供している。夜間はポカリスエットを随時提供している。月1回の懇談会にて食べたい物を聴いて献立に取り入れ毎年4、11月に栄養士によりチェックしていただいている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居時には感染症の確認を行い、感染症のマニュアルも活用している。本年度は1月31日に感染対策に対する勉強会実施。毎年インフルエンザの流行時期前に入居者とスタッフは予防接種を実施。スタッフは月に1回検便検査し感染予防に役立っている。年に1回の水質検査も実施している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、買い物に行き、新鮮な食材を確保し中国産は購入していない。使用時には消費期限の確認を行っている。衛生チェック表を使用し、毎日の除菌の徹底。又、週に1度、各項目ごとに衛生管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はゆるやかなスロープと手すりを使用し安全に歩ける造りになっている。門や駐車場には、つげやつつじ、玄関前には季節に応じた花を植えている。利用者がゆっくり花を見られるようにチェアセットを設置し、くつろげる空間を作り利用して頂いている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には観葉植物を置いたり、季節の飾りつけをしている。廊下には行事ごとの写真を飾り、トイレには殺風景にならないよう花の写真を飾っている。西側出入り口には西日が眩しいので光を遮る工夫を行った。ホールにも季節にあった手作りの飾りを置いたり、生花をいけたりしている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関横にチェアセットを用意し、利用者の方が日光浴をされたり、ウッドデッキにもガーデンチェアセットを設置し散歩の途中、座ったり、タバコを吸いに行かれたり、おやつをデッキですることもある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅との環境のギャップを感じないよう使い慣れたなじみの家具や小物が置かれ、仏壇を置いている方もいる。ADLの状況変化によりベットの位置を変えたり壁には家族の思い出の写真を貼られたりしている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	真夏や真冬でも朝の掃除の際には窓を開け換気するようにしており、各居室には換気扇が設置され常時作動させている。ホールには乾湿計を設置し管理を行っている。冷暖房は高齢者に合わせ、こまめに切るようにし扇風機のみで対応することもある。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所要所に手すりを設置。ADLに合わせ居室に手すり設置しているところもある。居室やホールの電気は2段階にでき、夜間のトイレ誘導時のための小ライトが居室、廊下に設置。玄関には椅子を置き安全、安楽に配慮。テーブルの椅子の工夫。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	環境整備の係を決め、住みよい環境づくりに努め、居室入口には目の高さに合わせ表札を設置。トイレや風呂場には暖簾や張り紙をつけ工夫している。日付、献立ボードに大きく記入。当日勤務のスタッフの顔写真を表示している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの敷地が広く、苑内を散歩したり、田んぼや土手に近いため苑外散歩したりしている。苑内の畑で作物の収穫をしたり、玄関前の花畑や鉢植えのある玄関テラスでお茶したりウッドデッキで日光浴したりして気分転換したりされている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの生活の流れを大切にし、それぞれできることに役割を持ってもらっている。地域との交流では地域の行事に積極的に参加し、町内会や近所の幼稚園と交流できている。利用者の家族や友人は頻りに訪れ、くつろがれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者本位、自己選択ができ、ゆっくり、のんびり生活できるように、週に1回の朝礼や全体会議で話を行う。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族や区長、地域の消防団、にホーム内外行事に参加できるよう案内を出している又運営推進会議には警察官に参加してもらいホーム広報誌を発行し、理解してもらえるよう対応している。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方を毎年ホームで行われる夏祭りに招待したり、近所の店や床屋を利用している。ホームの畑で取れた野菜をおすそ分けしたり、近所からも季節の野菜を頂いたりと交流に努めている。	○	近所の散歩や町内の行事にできるだけ参加し、顔なじみになり気軽にホームへ来所して頂けるようにしたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の区長さんと連絡を取り合い、地区で行われる運動会や文化祭等の行事に入居者、スタッフ共に参加することで気軽に訪ねて来ていただける様に交流を図っている。	○	高校生や専門学生の実習の受入れをしていきたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	学生の職場体験受入れやボランティアに来ていただく等を通じて認知症をより多くの方に知って、理解していただけるよう努めている。又、介護相談の窓口となり、地域の方に気軽に相談に来ていただけるように努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を参考に、研修を行い改善している。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価の結果報告や改善策を具体的に提示している。会議で出た意見に、率直に傾聴し対応している。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	大川市健康科介護保険係と大川のグループホーム8施設で行う意見交換会に参加し、市の職員と交流し質の向上を図っている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度について資料提示し、7月28日全体会議で勉強会を行なう。	○	家族には、必要に応じて説明を行うようにしている。次回の家族会で勉強会を行う予定である。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の資料提示し2月28日全体会議で勉強会を行なう。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の各項目について説明し、理解、納得を得られるように努めている。長期入院見込みと医師が判断した場合には、家族、医師と共に話し合い納得を得て退居手続きをとっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市より介護相談員の訪問を受け入れ、利用者の意見、要望、苦情、不満を探るように努めている。又運営推進会議のメンバーとして利用者に参加してもらい意見や要望を聞き運営に反映させている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に、個人記録を開示し生活状況や健康状態を説明している。又毎月発行しているお便りに個々の心身の状態を記載し報告している。金銭管理は、金銭出納帳をコピーし領収書と一緒に家族に渡し確認のサインをもらっている。	○	暮らしの日々の出来事は、写真や広報も活用している。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回家族会を開催し、意見の収集に努めている。又玄関先に意見箱を設置し随時苦情の受付をしている。運営推進会議で外部者へ意見を表せる機会を設けている。苦情、意見があれば全体会議で話し合い改善に努める体制作りをしている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議の中で意見を聴取している。改善すべき問題があれば全体会議で話し合い運営に反映している。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者主体に人員配置を行っている。食事作りのみのパートの方をお願いしたり、A・Bユニットスタッフがお互い勤務調整を行うことで協力体制を整えている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム内行事をA・Bユニット合同で行い全てのスタッフが入居者全員と馴染みの関係になれるよう努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は性別、年齢に関係なく雇用している。各自得意な事に役割を持ち能力を活かしている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	地域の人権問題講習会に参加し、全体会議において伝達学習を行っている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの経験、力量に応じ研修会への参加を促し、介護福祉士、介護支援専門員の資格取得を勧めている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	9/26市内のグループホームで集まり、管理者、介護従事者が参加し意見交換会をしている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室でくつろげるようテレビや寝具を用意している。定期的な懇親会を開催し意見を聞く機会を持っている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自己評価、上司評価による成果を給与に反映させるなどしている。健康診断の実施、産休、育児休暇実施、労働条件の向上に向け努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族、病院からの情報提供を参考に本人のニーズの把握や不安の解消に努め入居後は不安はないか様子観察し、なんでも話しやすいような馴染みの関係を築けるように努める。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の家庭訪問や数回の面会を重ね、ご家族や本人の要望、困っている事を聞き、それを受け止めて日々の業務に努めている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた時に十分な時間を設け、話を聞き、利用者のレベルにあった生活の場の説明や紹介などもしている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者、家族へ事前に見学して頂くようお願いしている。担当職員は、何度か入居前に訪問し、顔なじみの関係を作りご本人が納得してから利用してもらうよう努めている。		入居当初、本人、家族の不安があれば家族も一緒に泊まって頂く事ができる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の得意な事を職員全員が把握しており、食事作りや洗濯物たたみ、掃除等行う際は積極的に参加して頂くようにしている。感謝の言葉を必ず伝え、入居者の方からも気遣いの言葉を受けたり、自ら手伝いに来ていただくなどよい関係が築けている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	墓参りや受診時の付き添い等協力していただいている。野菜の差し入れを頂いたり、誕生会、夏祭りなど行事がある際には入居者の方と一緒に参加して頂くようしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月、ユニット便りを発行し、入居者の近況を家族に報告している。誕生会や夏祭りなどのイベントは早めに連絡し、多くの家族の方に参加して頂いている。 普段も家族の面会のほかに家族との外出・外泊をされている方もおられる。		入居者の認知症などの病気の進行や変化について家族に説明、理解して頂くとともに家族の状況の変化(入院など)にも対応できる体制をつくる。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前入居されていた家族や入居以前からの友人の面会など、顔馴染みの方々の面会も多い。 外出の際には、入居者の希望によって自宅やお宮など馴染みの場所に行く事もある。		一部の入居者に限られている。希望・要望の訴えない入居者も行動観察や家族に協力して支援していきたい。
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	職員が入居者の状況を把握する事で入居者同士の話をするきっかけを作ったり、一緒に食事作りや散歩などを楽しんでいただいている。認知症の進行により他入居者との意思疎通が難しく、トラブルがあった場合は職員が間に入り対応している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院などで一度退居された方の再入居や再入居申し込みも多いため、入院中もソーシャルワーカーとの連絡を取り、状況を把握するように努めている。以前入居されていた方の家族が来訪される事もあり、イベントに招待している。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者や家族の希望を聴き、介護計画を作成している。自己表現の困難な方の場合、行動観察をしてアセスメントを行っている。一場面の前後の行動をカンファレスで話し、個人の背景を把握し、ニーズに添えるように努めている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から本人様、家族、施設や病院から情報を得ている。入居後も本人様との話や家族との連絡により、入居前の情報を得るように努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録に1日の過ごし方や心身状態、食事・排泄状況などを記入し、朝夕の申し送りでは大切な所見は口頭でも申し送り、把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスで入居者のその時期に合った計画を作成できるように心がけている。毎朝の申し送り時に気づき、必要であれば、主治医・看護師・家族に相談して介護記録に反映している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の介護記録や申し送りで入居者の状態の変化によっては、介護記録の期間内であっても見直ししている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の介護記録や全体の申し送り簿に目を通し、個別の状況を把握するようにしている。休み明けの職員でも状況把握ができるようにわかりやすい記録の記入を心がけている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体が病院であり、医療機関との連携を取りながら必要に応じて受診や訪問看護の利用を行っている。入居者の外出、外泊や家族の宿泊にもその都度、対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域行事に参加したり、ホーム行事に招待したりして地域との交流をしている。消防署には避難訓練を通して協力頂いている。地域交番や近所の方には徘徊時の協力依頼をしている。民生委員の定期的な訪問やボランティアの慰問交流もある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて歯科受診してもらったり、訪問理美容近くの理容室を利用している。地域のケア相談事業所と情報交換している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	該当者は現在いないが、事業所のみでは困難な状況になった場合等、市の地域包括支援センターに相談し連携をとりながら支援をしていく。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者が母体の病院にかかっている。皮膚科、歯科、眼科等かかりつけのあるかたは継続して受診されている。受診はスタッフが付き添い受診時の報告は随時おこなっている。家族が付き添われる入居者もある。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医へ相談が出来、必要時は受診し、じっくり話しを聞いて頂いたり、内服変更してもらっている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、入居者の健康管理を行っている。夜間や休日は電話連絡し、必用時は施設に来てもらったり、母体の病院に連絡して助言をもらっている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際には家族と共に医師から診断結果、治療計画を聞き、入院中は担当看護師やソーシャルワーカーと連絡を密にし、退院の調整、今後の対応を話しあっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合、終末期の指針を説明し同意を得ています。その時その時で家族本人の意向を確認しながら対応し方針を共有していく。急変時の対応などもスタッフ間で共有し介護にあたっている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まだ該当者はいないが、安心と安全を確保しよりよく暮らして頂くために、予測される事柄や、状態変化に対応出来る様話し合い、医療関係、訪問看護の導入など家族、スタッフで協力し日々検討していくようにする。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居の際には以前に利用されていたサービス機関から本人の状況、習慣、好みなど情報をもらい、今までの生活が継続できるよう支援している。ホームから移られる場合は、本人、家族の了解をもらい情報を提供、ケアの継続やダメージが最小になるようにしている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に入居者の方を、人生の先輩として尊敬する事を忘れないようにしている。人前での排泄の声掛け時は気配りし、耳元で確認したり、言葉ではなくサインやメモで確認している。個人情報については、守秘義務についてスタッフ全員周知徹底している。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	体操やレクリエーション参加は利用者の意思を大切にしている。食事の献立選びや、一緒に買い物に出かけ希望の物を選んでもらっている。入浴についても本人の意思を大切に、いつでも入れる。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間等入居者の希望にあわせ午前、午後とも行っている。食事時間も個人のペースに合わせ見守っている。その人の前日から夜間の様子を把握し、その日の体調等を考慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの店に行って、カット、カラーをされたり、ホームに来てもらって散髪されたりしている。外出時整容の声掛けをし、本人の気に入った服を着られるよう支援している。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に応じて、食材の下ごしらえを手伝っていただいたり、テーブルセット、食後の食器片付けをしていただいている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎晩、晩酌されたり、タバコを吸われたり、支援している。飲み物、おやつ等、可能な限り、手作りのものを用意したり、要望があれば、個人購入で買ってきている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を記録し、個人の排泄を把握し、失禁がないよう声掛けし、トイレ誘導している。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間帯の制限なく、本人の希望にそって、一人でゆっくり入っていただいている。拒否がある時は、無理強いせずにタイミングを図って、声掛けしている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、休息したい人は、居室でしていただいたり、夜間は、希望によれば、主治医の指示で、処方された薬剤で調整を図っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味・経験に応じた楽しみや、日々の生活の中で洗濯物たたみや料理など身体能力に合った役割分担をし、必要とされる喜びを感じられるような支援を心がけている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望の品を代購したり、買い物へ出掛ける時は、職員が付き添い1人ひとりの価値観や能力ぬ応じ、本人が直接お金の支払いができる様に支援している。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や天候、身体能力やその日の体調を考慮し、出来る限り希望に添った所へ外出できるよう支援している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望に応じ、行ける所へは職員が同行し、家族と連絡をとり合い、お墓参りや、自宅への外出や外食をされている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、電話をされたり、取り次いだりしている。個人で携帯電話を使用されている方もおられる。手紙は直接本人へ手渡し、希望により、代読・代筆している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族や知人や友人、近所の方などが気軽に訪問して頂き、ホールや居室での談話が楽しめる様、お茶やお菓子を用意し配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒の危険がある方には、センサーマットを利用し、身体拘束をしないケアを実施している。また、身体拘束のマニュアルを準備している。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が、鍵をかける事の弊害を理解しているが、帰宅・外出願望の強い入居者の安全の為、やむなく施錠を行っている。		鍵をかけないケアができる様、検討していきたい。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールが無人にならない様、職員間で声掛けをし、入居者の行動把握や所在確認に努めている。夜間はセンサーマットを利用し、プライバシーの保護に配慮している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤・包丁などは、入居者の目につかないところや鍵のかかる場所に保管している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記入し、全体会議や申し送り時やノートを活用し、カンファレンスをして事故の再発防止に努めている。又消防署員の下、定期的に火災訓練や初期消火訓練を、年2回実施している。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルがあり、定期的に勉強会を行っている。消防署員からの救急救命の指導を受けている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防災訓練を実施している。近隣の方にも訓練に参加頂き災害時に協力が得られるように働きかけている。又非常用備品を準備している。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては、その都度連絡し個別に説明し理解頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル測定、食事・水分摂取量チェック、排尿排便回数・量チェックを行い、表情・行動の変化に気をつけている。また訴えを良く聞き異変時は同一法人の病院と連携し対応している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書きをファイルに綴じ職員がいつでも確認できるようにしている。服薬の支援については声に出し名前を呼び本人確認し飲み込まれるまで確認するよう努めている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操・散歩に誘い体を動かして頂くよう工夫している。又食事やおやつに繊維質の多い食品・乳製品を取り入れている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアは個人の能力に応じ介助が必要な場合は付き添い介助している。義歯の洗浄はポリドントを使用し毎日行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎日記録に残し把握している。また食材や食事の形態は利用者に応じて対応している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	速乾性手指消毒剤、使い捨て手袋を使用している。手洗い励行に努めている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買い物は毎日行き必要なもの以外は買わないようにしている。又野菜は八百屋に注文し新鮮な食材を提供している。乾燥機、ハイター消毒、日光消毒を行い毎日衛生管理チェック表にチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには入居者が作られた作品等を飾っている。又季節の植物を育て季節感を感じられるよう工夫している。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をテーブルや棚に飾っている。また入居者と一緒に行った折り紙の工作・写真をホールや廊下の壁に飾っている。窓にはロールカーテンを使用し眩しくないよう調節している。テレビの音量にも気を配るようにしている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き自由に座って好きなことができるようにしている。中庭にあるウッドデッキには椅子とテーブルを準備し少人数で過ごせるスペースがある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や小物を設置し、個性のある空間作りに努めている。壁には家族の写真を貼られたり、好きなお花や観葉植物を居室に置かれている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、掃除の際には窓を開け換気に気を配り、又、各居室に換気扇が設置してあり、ホールでは乾湿計にて適切な温度と湿度の管理を行っている。冷暖房はこまめに切るよう心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には利用者の身体機能に邪魔にならないように、家具や小物を置く。廊下、トイレ、浴室には手すりが設置してあり、各居室、廊下には夜間のトイレ誘導のために小ライトが設けてあり、室内灯も二段階に調節できる。下駄箱の前には縁台を設置し、腰掛けて危険なく自分で靴の着脱が出来るようになっている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	係りを決めて環境整備に努めている。居室入り口には飾り付けをした表札を設置し、トイレ入り口にも分かり易い様に大きく目印をしている。当日勤務のスタッフの写真をボードに表示し入居者に分かりやすいようにしている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地が広く、田んぼや土手が近いので、ホーム内、外を散歩している。ホーム内の畑に野菜を作り、入居者と一緒に草取りや水撒きをしたりして活用している。ウッドデッキや玄関横のテラスではお茶会や日光浴等に活用している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

それぞれの残存能力に合わせた家事全般(料理手伝い、裁縫、掃除、園芸、畑仕事など)をして頂き、家庭的な生活環境を保ちながら、認知症の悪化防止に努めております。母体が病院であり隣接しているため、急病でもすぐに受診でき、健康保持のための連携がとれていると思います。又、午前、午後毎日入浴でき、1人ずつの入浴でのプライバシーの確保など、入居者本意に立った介護に取り組んでいます。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

それぞれの残存能力に合った家事や園芸、学習（脳トレーニング問題、ハンドベル練習）に参加して頂き、家庭的な生活環境を保ちながら認知症の進行防止に努めています。母体が病院である為、急病でもすぐに受診対応ができ健康保持の為の連携がとれている。午前、午後毎日入浴ができ1人ずつの入浴でのプライバシーの確保など入居者本意に立った介護に取り組んでいます。